

皆様 明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

昨年資源リサイクル業界にとって良い年であったようです。相場上昇の恩恵を受け、それなりの利潤を得ることが出来た一年だったのではないのでしょうか。経済や世界情勢が目まぐるしく動く中、概ね今年的情勢は良さそうだと受け止められています。こういう時こそ、安全衛生などの基本を大切にしていきたいと思えます。

景気動向は良いと思われませんが、何があるかわかりません。そういう中においても今年資源リサイクル業界では、大きな変化の年になることははっきりしています。廃棄物処理法の改正、パーゼルの改正、中国での資源輸入規制・環境保全措置により、国内リサイクルのあり方が大きく変わるためです。当社でも中国向けに輸出していたものを、自社加工を進めて素材の個体分離を進め、国内循環などにに向けていく準備を進めていきます。大きく商売・環境が変わっていく中で、お客様のお役に立てるようなサービスが提供出来るよう社員全員で準備をしています。大変しみな作業です。今年も全力投球をしていきますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4

電話 03-3790-1751

URL <http://www.tokometal.co.jp>

(見学受付)

電話03-3790-1751 又は 各営業担当

★羅針盤

鉄スクラップ → 考察)

12月は東京製鉄宇都宮工場の特級価格34,500円/トンでスタートし、最終的には36,000円/トン。10月後半からの上昇基調を引き継ぎ上昇した。1月に関しては、原料の上昇・輸出向・国内電炉・高炉メーカー共に好調な為、更に上がると考えられます。

銅 → 考察)

12月は、LME6,800ドル台、国内銅建値810,000円/トンでスタートし、最終的には、LME7,250ドル台、国内銅建値850,000円/トンまで上がりました。1月に関しては、為替の安定・世界的な景気の好調さから見て、LME 7,200ドル/トン台はキープされると思われます。1月は横ばいでしょう。

アルミ → 考察)

12月は、LME2,030ドル/トンスタートし最終的には2,280ドル/トンまで上昇。1月に関しては、自動車生産も好調なため、上がると思われれます。

プラスチック → 考察)

廃プラの輸出が厳しくなり、RPF等のサーマルリサイクルへ移行。しかし、RPFの基準もどんどん厳しくなり、分別の強化が今以上に必要になると考えられます。

12月予測の自己評価

鉄スクラップ ○ アルミ ×
銅 × プラスチック ○

鉄・非鉄スクラップ・市況からの1月予測

営業部 Y の考察



グラフィックデザイナーに憧れて

営業部 金野 徹

新年あけましておめでとうございます。今年も東港金属をよろしく願い致します！

今月より本コラム連載担当メンバーに入りました金野(コンノ)と申します。営業部3課 千葉工場出荷を担当しています。

東港金属に入社しまして、早7年が経とうとしております。各営業マンの羅針盤連載を他人事のように楽しんでおりましたが、今回は私に白羽の矢が立ちました。お付き合いのほど、よろしく願いいたします。私の歩みを皆様にご紹介いたしますので、千葉工場にお見えの際にはお声がけいただければ幸いです。

早いもので、私も今年32歳になります。元々はリサイクル業界とはあまり縁のない広告業界にてデザインの仕事をしていました。ここで少し入社前のお話をさせていただきます。

高校を卒業し、グラフィックデザイン専攻で仙台市内の専門学校に入学し、2年間デザインについて学びました。卒業後は念願だったデザイン事務所に入社しました。私が担当したのは、DTP(デスクトップパブリッシング)デザインで、文章や写真、イラストなどのレイアウトを考え、DTPソフトを使ってデザインをするというもので、皆さんがよく見る新聞の折込チラシやポスターのデザインなど製作しておりました。

折込チラシは季節ごとのイベントに合わせたタイトル(正月・GW・お盆・クリスマスなど)で刷られることが多く、冬に夏・冬に夏のチラシのラフを作るという季節感がピンとこない中でデザインしておりました。一から構成を練り、お客様からの要望を聞きながら、少しでも自分の趣向に近づけるなど、遊びを入れてデザインをし、自分の関わった仕事を実際に印刷物という形になる喜びと達成感を感じました。

印刷物はデザイン→校生(誤字脱字チェック・カラーチェックなど)→入稿(データ納品)→印刷という大まかな流れになるのですが、校生時にチェック漏れがあると、その後の工程がパーになってしまいます。私も何度か経験しましたが、一番大きくやらかしたのは、大手スーパーの食品チラシを製作していて、日替わり特価として扱っていた枝豆の重量で『30g』と記載するところを『30kg』と記載してしまい、誰も気づかずに印刷されてしまったことでした。慌てて刷り直しをし、お客様からクレームが出る事態は避けられましたが、印刷してしまっていた印刷代は弁償になったようで、お叱りを受けました…刷り上がったものを見ても良いことがないと教えられました。自分でデザインしたものは、後から見返しても間違いを見つける程度で、いい部分を見つけることが出来ないという意味です。確かに、レイアウトは全てに意味があり、意味がなく配置してあるものはありません。全てにおいて考えがあります。自分で作ったものは、後から見直してもインスピレーションが湧くことはあまりありません。

グラフィックデザインという聞こえの良い名前の仕事ですが、現実はやはり厳しいものでした。次の回でお話します。

★羅針盤

当社の産廃エキスパート認定が更新されます

東京都が全国で初めて創設した「優良性基準適合認定」制度は、産業廃棄物処理業者の任意の申請に基づき、適正処理、資源化及び環境に与える負荷の少ない取組を行っている優良な業者を、第三者評価機関として都が指定した公益財団法人東京都環境公社が評価・認定する制度で、平成21年度より実施されております。

認定の有効期間は、新規申請の場合は2年後の年度末まで、更新申請の場合は3年後の年度末までとなっております。当社は制度開始当初から認定を受けており今年度末で有効期間が切れますが、昨年の更新審査の結果、3回目の更新認定を受けることが出来ました。

本紙では既に本制度についてのご紹介をしておりますが、改めてその概要をご案内いたします。

本制度の特徴としては、都の許可を有し、都内での実績が1年以上の産業廃棄物処理業者で事業内容や取組の状況に対応し、①産廃エキスパート(第一種評価基準適合業者)=業界のトップランナー的業者、②産廃プロフェッショナル(第二種評価基準適合業者)=業界の中核的役割を担う優良業者の二種類の認定を行うものです。

また特別管理産業廃棄物における感染性産業廃棄物を扱う場合のみを対象とした 専門性の認定も行われております。認定に当たっての評価項目(評価事項数は申請区分によって異なります)の概要は以下の通りで、申請書面での審査に加えて現地審査も行われます。

- ・遵法性⇒法定要件・義務を確実に履行していること
- ・安定性⇒安定的で信頼性がある自主的な運営を行っていること
- ・先進的な取組⇒環境貢献活動等、先進的な取組を行っていること

次の表は最新の「優良性基準適合認定」を受けた業者の数です。

認定の区分	認定社数	業の区分(件数)			
		専門性 (感染性廃棄物)	収集運搬業 (積保を除く)	収集運搬業 (積保を含む)	中間処理業
産廃エキスパート	171社	29件	77件	87件	84件
産廃プロフェッショナル	87社	15件	65件	23件	22件
計	258社	44件	142件	110件	106件

* 複数の業の区分で認定申請を行っている業者がいるため、認定社数の合計は整合しない。

参考に、この認定件数と都内の産業廃棄物処理業の許可件数(特管処理業者を除きました)の比率(認定件数/許可件数)を見てみます

と、収集運搬業(積替え保管を除く)では約1.0%、収集運搬業(積替え保管を含む)では約22%、中間処理業では約31%となりました。

産業廃棄物処理業			
収集運搬 (積保を除く)	収集運搬 (積保を含む)	中間処理	計
14,447件	497件	337件	15,281件

環境省・産業廃棄物処理業者情報検索システムより